

# 変動気象に耐えられる後期栄養増強と土づくり等の実践で高品質米生産!!

## ～ 最重点5項目の確実な実践で1等米90%! ～

### 1. 令和7年度エコ・5-5 運動の重点技術対策 太字の5項目は最重点 〃：新規・強化取組

重点技術対策	具体的な取り組み
変動気象に耐えられる「土づくり・元気な根づくり」	①作土深は15cmを確保しましょう(スタブルカルチ・“回り耕ち”等) ②堆肥・完熟発酵ケイフン(みらい有機)・ケイ酸質資材による土づくりを推進 ③稲わら秋すき込みと、もみ殻をほ場に還元しましょう
健苗育成と「良質茎の早期確保で安定収量を確保」!	① <b>深植えを是正し、健苗育成と移植前追肥</b> で活着・初期生育を促進しましょう ②完熟発酵ケイフン等による基肥窒素量の補填(砂質土壌等低地力ほ場)と <b>基肥量(P・K含む)の再点検</b> (粘土質土壌等の高地力ほ場)を行いましょ ③5月10日以降で5月20日を中心とした田植えの推進により、8月5日以降の出穂を目指しましょう(4月20日～5月上旬播種の推進) ④水の更新や夜間落水により、 <b>中干し時期までのワキ防止と根の健全化</b> を図りましょう
適期中干しによる生育調節で「倒伏させない稲づくり」	①田植え後1か月を目途に茎数を確認して中干し・溝切りを実施しましょう ②本格的な <b>梅雨入り前に地耐力を確保</b> 、過剰籾数を抑制しましょう ③“小ヒビ”中干しを基本とし、軟弱圃場では強め中干しでコンバイン収穫の地固めをしましょう
的確な生育診断と倒伏させない穂肥で「高温に強い稲づくり」	①葉色による穂肥診断とスマート技術の活用で、ほ場生育の均一化を目指しましょう ②高温に耐えられる後期栄養の増強で背白粒等の白未熟粒の発生を防ぎましょ ③8月の高温常態化に対応した慣行栽培の化学合成窒素使用量の見直しに伴い、 <b>エコ栽培における穂肥化学合成窒素使用量が0.5kg/10a増施可</b> となります ③品質と良食味を兼ね備えた適正玄米タンパク質含量(コシヒカリ:5.5～6.0%)
高温気象下における「こしいぶきの高品質安定生産」	①完熟発酵ケイフン等による基肥窒素量の補填と生育の大型化 ②健苗育成と適正栽植株数(60株以上/坪)、深植えを是正し良質茎・穂数を確保ましょ ③生育量確保と除草剤処理層維持のため6月10日を目途に中干しを開始ましょ ④積極的穂肥による後期栄養確保上限補給で品質・収量を両立ましょ
こまめな水管理で「粒張りのよいおいしい米づくり」	①飽水管理又は間断かん水を徹底し、根の活力、葉色及び地耐力を確保ましょ ②台風・フェーン時は事前湛水し、水温上昇を抑えるこまめな水管理を行いましょ ③最終かん水日は出穂後25日以降とし早期落水をしないようにましょ
少ない農薬使用で効果的な雑草・病虫害防除	①初中期一発剤・中後期剤により水田内雑草を効果的に防除ましょ ②いもち病及び紋枯病は予防防除が基本です(GPオリゼリディア箱粒剤)
適期収穫と丁寧な選別で「全量1等米“へ”」	①収穫適期情報+②ほ場の籾黄化程度85～90%で収穫適期判断+③高温・フェーン時の過乾燥防止により、胴割粒の発生を防止ましょ(適期収穫・適正乾燥) ④選別網目1.9mmを使用し、整粒を確保して1等米に仕上げましょ ⑤収穫適期期間内に刈取りを行うために、ライスセンター等の共同乾燥施設を活用ましょ

「苗半作」米づくりのスタートは丁寧に行うのじゃ!!



### 2. 育苗作業手順

(1) コシヒカリの作業計画

作業目安：浸種10日間、催芽2日間、育苗20日間、田植え5月10日以降

作業内容	作業期間
浸種	4月8日開始～4月17日終了
催芽	4月18日開始～4月19日終了
播種	4月20日
育苗	4月20日～5月9日
田植え	5月10日～

#### 【休眠情報】

「令和6年産のコシヒカリBL種子の休眠は、やや深いと推定される」作物研究センターより

### 3. 浸種 ～休眠性がやや深い為“ていねいな浸種・催芽”を心がけましょ～

(1) 適切な水温のめやす = 浸種温度12℃

品種	浸種温度×浸種日数	積算温度
コシヒカリBL	12℃×10日間	120℃
新之助・こしいぶき	12℃×8～9日間	100℃

ていねいに浸種されて十分に給水した種籾は「籾殻が透きとおったアメ色」になります

(2) 浸種初期の低水温(10℃未満)は、発芽揃いが悪くなります。浸種初期水温は10℃未満の低水温とならないよう注意してください  
※エコ5-5の場合、他の薬剤消毒剤と一緒にしないでください。

(3) 浸種期間は酸素不足にならないよう十分な水量を確保し、水の更新を適切に行ってください。(浸種初日から1日おきに交換してください。)  
水切りは浸種期間中に、2回以上行なってください。必ず、別の台(めざら等)に移して水切りしてください。  
※モミガードC等(慣行栽培)の薬剤消毒済み種子籾は、消毒効果を高めるため浸種開始から4日間程度は水を入れ替えないでください。

(4) 浸種水槽に直射日光が当たらないよう屋内等で浸種して下さい。

### 4. 催芽

(1) 催芽温度 … 30℃(こまめに水温を確認ましょ)

(2) タフブロック剤の処理 … 褐条病・ばか苗病等の予防

※注意：種子籾は温湯消毒済みであっても、褐条病やばか苗病等の発生を防ぐために、必ずタフブロックによる消毒を行ってください。タフブロック処理した種子籾は、消毒効果を維持するため、水に浸けたり、洗ったりしないでください。

#### 【使用方法】

農薬名	希釈倍率	使用時期	使用方法
タフブロック	200倍	催芽時	24時間種子浸漬

お問い合わせ先 ながおか営農センター ☎0120-915882 とちお営農センター ☎0120-915885

※令和7年度第1回エコ・5-5運動代表者会議が2月26日に開催され、承認されました。

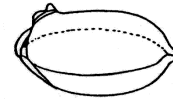
裏面もご覧ください。

**催芽の状態を必ず確認しましょう！**

(3) 催芽終了

- ① 催芽日数は1～2日を目安に、籾の発芽状態は鳩胸程度とし、発芽率が80%以上になったら終了し、陰干しします。
- ② コシヒカリ、五百万石等、例年休眠の深い品種は必ず催芽状態を確認してください。
- ③ 「こがねもち」「わたぼうし」「越淡麗」は発芽しやすいので、芽・根が伸び過ぎないように注意しましょう。

鳩胸程度の催芽



**※催芽種子の冷水中での浸漬保管は厳禁です。(酸素欠乏で、根の発育が悪くなります！)**

**5. 育苗ハウスの準備**

積雪の多い地区では、ハウス用地は早めに除雪して育苗ハウスを建て、ハウス内の地温上昇を図って下さい。  
育苗ハウス周囲に小排水溝を掘って排水を良くし、育苗中のハウス内の滞水を防いで下さい。(ハウス内の排水が悪いと“ムレ苗”の原因になります。)

**6. 消雪後の本田準備(田面水の排水)**

根域の環境改善の為、枕地などで滞水している圃場では、可能な限り小溝を切って表面排水に努め、田面の乾燥を早めてください。



【参考】H29 年度宮内地域品質向上プロジェクト「砂利採取後排水不良ほ場の排水対策」実証圃の本田準備排水状況 (H29 JA 越後ながおか、六日市)

**7. エコ・5-5 運動遵守事項**

- (1) 『令和7年度エコ・5-5 運動「肥料・農薬使用基準」(栃尾・山古志地区)』を必ず遵守して下さい。基準を満たせない場合は「エコ・5-5 米」として販売が出来ないため、慣行栽培米としての扱いになりますので注意願います。
- (2) JA 育苗センターで播種した苗は全て「箱処理剤施用済み」ですので注意して下さい。
- (3) 作付け前(前年収穫後から)の圃場内に、除草剤等農薬は一切使用できません。
- (4) エコ・5-5 コシヒカリは選別網目1.9mmが要件となっています。
- (5) 「エコ・5-5 圃場看板」を、必ず設置してください。  
3月末頃に看板を配布します。**4月20日までに設置をお願いします。**
- (6) 圃場設置看板の素材変更について  
昨年度、看板設置後の強風などによる紛失などが多くあったため、今年度は耐久性のさらに強いものへ変更します。  
設置方法については生産者の方より粘着テープなどで補強等いただくなどご協力をお願いいたします。

**令和7年度エコ・5-5 運動「肥料・農薬 使用基準」【栃尾・山古志地区】**

農薬は、各剤1つの剤型のみ使用できます。

●=使用可能(重点品目) ○=使用可能 ×=使用不可 \_\_\_\_=新規

	農薬・肥料名	コシヒカリ	その他	
育苗箱の消毒	イチバン	○	○	
種子消毒(催芽時)	タフブロック	●	●	
水田初期病害虫防除	GP オリゼリディア箱粒剤	●	●	
水田 除草剤	初期剤 ソルネット 1 キロ粒剤または エリジャン(乳剤・ジャンボ)	○	×	
	初中期一発剤 カウンスルエナジ-(1 キロ粒剤・ジャンボ・フロアブル)	●	●	
	中後期剤	クリンチャー(1 キロ粒剤・EW・ジャンボ)	○	×
		クリンチャーバス ME 液剤 バサグラン(粒剤・液剤)	※1 ○	× ○
害虫防除(共同防除)	スタークル(液剤 10・粒剤・豆つぶ)	●	●	
いもち病防除	フジワン (粒剤・1 キロ粒剤・パック・乳剤)	×	×	
	フジワンモンカット粒剤	×	×	
紋枯病防除	モンカット粒剤・フロアブル	×	×	
紋枯病防除	バリダシン(液剤 5・粉剤 DL・エアー)	○	○	
いもち病防除	ブラシン(フロアブル・粉剤 DL)	×	○	
	カスミン液剤	○	○	
稲こうじ・墨黒穂病防除	ドイツボルドーA または Zボルドー(粉剤 DL・水和剤)	○	○	

※1「クリンチャーバス ME 液剤」使用の場合は、クリンチャー及びバサグランの使用はできませんので  
ご注意下さい。

※ 農薬の使用にあたっては登録内容を遵守してください。

育 苗	「稚苗苗代配合」	○	○
	「ホーネンス培土1号」、「ホーネンス培土1号 Si」、 「くみあい液肥2号」、「べんとう肥」	●	●
土づくり	完熟発酵ケイフン(みやぎ有機)、牛ふん、豚ふん、みつパワ ニュー-米スタ-、ようりんケイカル、マルチサポート Fe、農力アップ等	●	●
基 肥	「越後の輝き有機 50 元肥」 または 「フレーバーペースト 734」	●	●
	味好2号、フジミペレット 731、みらい有機 831	○	○
全量基肥 肥 料	「越後の輝き有機 50 スーパー元肥」(早生用)、 「越後の輝き有機 50 スーパー元肥ロング」(コシヒカリ用)	●	●
中間追肥	ウォーターシカ、マルチサポート Fe、スパーシカ、塩化加里 けい酸加里プレミア 34、ニュー-米スタ-、ファイト・アップ 等	○	○
穂 肥	「けい酸入りエコ・5-5 専用穂肥」	●	●
	味好2号、フジミペレット 731、フェザ- MAX、みらい有機 831	○	○

**令和7年度の使用基準を事前にチェックするのじゃ!!**

